

I 実践

1 研究主題 人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進 ～教育活動全体を通した生徒の人権感覚や人権意識の育成～

(1) 主題設定の理由

本校の生徒は、全体的に落ち着いた生活態度で、素直で明るい生徒が多い。しかし、なかには同級生や先輩の心無い言葉に心を痛め、つらい思いをしている生徒も存在していた。その姿をみた周囲の発案によって、平成 24 年度に当時の第 1 学年の生徒たちから自発的に生まれたのが「いじめ撲滅委員会（以下、IBI と表す。）」である。いじめとは、個人の人権を踏みにじる、許されざる行為である。そうと知りながらも、自分を守るために周囲を傷つけてしまいがちな中学時代だからこそ、学校全体で「いじめは絶対に許さない」という姿勢を貫いていくことが大切である。

IBI 発足から 4 年が経ち、いじめ撲滅の精神はしっかりと定着してきている。IBI の活動を通して、さらに思いやりあふれる生徒を育成できるよう、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 学校活動全体で取り組む IBI 活動

イ 具体的な IBI 活動について

2 実践内容

(1) 学校活動全体で取り組む IBI 活動

IBI が昨年度から常設委員会として認められ、より一層全校生徒で取り組みやすくなった。活動範囲も拡大され、生徒がいじめ撲滅の精神を意識する機会が多くなった。ただ一方的に「いじめはダメだ」と押しつけるのではなく、生徒が主体的にいじめや人権について考えたり、議論を交わしたりすることができる場の設定を心掛けている。

年月	内容	年月	内容
H24. 9	・ IBI 立ち上げ	H27. 1	・ 全国いじめ問題子供サミットに参加 文部科学省でポスターセッションを行う。
H24. 11	・ IBI 発足式		・ IBI フェスティバル
H25. 3	・ IBI フェスティバル	H27. 4	・ IBI が専門委員会として承認される
H25. 5	・ 茨城新聞で活動が紹介される	H27. 5	・ 生徒総会でいじめゼロ宣言を行う
H25. 9	・ 生徒総会で活動報告	H27. 9	・ 体育祭で活動報告及び協力呼びかけ
	・ 体育祭で活動報告及び協力の呼びかけ	H27. 10	・ KKS キャンペーン開始
	・ 県教育委員会HPで活動が紹介される	H27. 11	・ 文化祭での活動報告
H25. 10	・ 文化祭での活動報告	H27. 12	・ 教育評論家尾木直樹氏のブログで紹介される
	・ IBI 総合フェスティバル（2 学年文化祭と IBI フェスティバルの共同開催）	H28. 2	・ IBI フェスティバル
H25. 11	いじめゼロ宣言を行う。	H28. 3	・ IBI 引き継ぎ式
H26. 1	・ 朝日新聞で活動が紹介される	H28. 4	・ 体育祭で活動報告及び協力呼びかけ
	・ IBI が特別委員会として承認され、活動の幅が全学年に広がる。		・ 生徒総会でいじめゼロ宣言を行う
H26. 4	・ いじめストップ推進モデル校任命	H28. 5	・ ハイタッチデー開始
H26. 5	・ 生徒総会でいじめゼロ宣言を行う	H28. 7	・ KKS キャンペーン開始
	・ 体育祭で活動報告及び協力呼びかけ		
H26. 9	・ いばキラTVで活動が紹介される		
	・ 文化祭での活動報告		
H26. 11	・ ペイフォワード運動開始		
	・ 一学年 IBI 集会開催		

(2) 具体的な I B I 活動について

ア I B I 定例会

毎月、委員会活動の時間に学級の代表が集まり、学級の様子や問題等について話し合う場を設けている。1年生から3年生まで、学級や学校をよりよくしていきたいという思いをもった生徒が集っているため、それぞれの学級の悩みに真摯に向き合うことができる。3年生にとって、後輩の悩みは自分たちも経験してきたものである。1・2年生は、教師からのアドバイスとはまた違う助言に気付かされるものが多い様子である。



【I B I 定例会での様子】

イ あいさつ運動&ハイトッチデー

毎週月曜日の朝、I B I 委員による「あいさつ運動&ハイトッチデー」を実施している。あいさつをすることは勿論、男女分け隔てなくハイトッチをすることによって、元気よく学校生活をスタートしようとする気持ちを盛り上げている。多感



な時期にあって、ハイトッチに対して抵抗感を抱く生徒もいるのではないかと危惧された。しかし、I B I 委員の快活な呼び掛けや毎週の積み重ねによって、誰とでも元気いっぱいにあいさつやハイトッチを交わす姿が見られている。

ウ I B I 集会

I B I 委員が、SNSでのいじめの場面などを役割演技によって実演し、その問題点について全校生徒で考える機会を設けた。日頃一緒に生活している部活動を単位として、相手にされて嫌なことを付箋に書き込んでいき、自分たちの生活を振り返ることとなった。たくさんの意見が出され、何気なくしてしまっていたことが相手にとっては不快なことであったことに気付かされたり、改めて友人との接し方を見直したり、有意義な時間となった。



【I B I 集会で意見を出し合う様子】

II 今後の課題

I B I 委員会での活動がさらに充実し、いじめ撲滅の精神がしっかりと定着してきていることを実感している。いじめを撲滅する以前に、いじめが起きない雰囲気を作ることが大切であるため、I B I からの発信によって生徒間の温かな交流が図られるようにしていきたい。また、I B I が形骸化することのないよう、年度当初に全学年の理解を深めていくことが肝要である。